

筑紫（九州）の万葉集と風景画シリーズ（第六十七回）

まつら

「松浦川（現・玉島川）に遊ぶ」

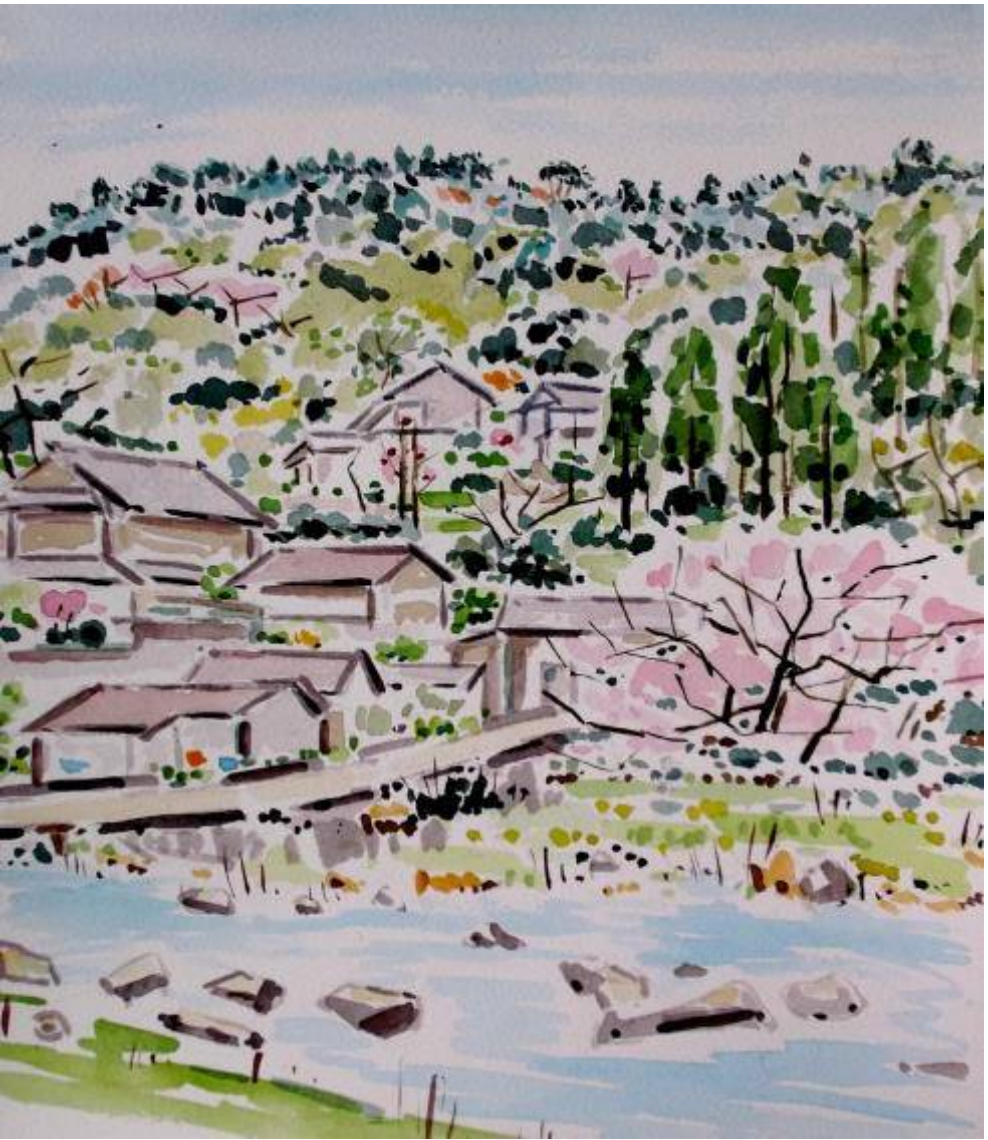
・万葉集第五卷には大宰帥（大宰府長官）大伴旅人が松浦川に遊んだ時に作ったといわれる一連の歌が載る。

・松浦川は、九州の北部、佐賀・福岡両県の県境にまたがる山地「背振山地」の荒川峠付近に源を発し佐賀県唐津市東部を流れ唐津市浜玉町浜崎から唐津市と福岡県糸島市に囲まれた玄界灘（唐津湾）に注ぐ全長約16kmの今の玉島川であることが通説である。

・松浦川（現・玉島川）は「古事記」「日本書紀」等に神功皇后が朝鮮（新羅）出兵のときに、玉島の里（現・唐津市浜玉町玉島）付近を流れる松浦川で石の上に立って鮎を釣って武運の成否を占ったという「神功皇后の鮎釣り伝説」で有名である。この神功皇后が鮎を釣るために釣り糸を水に垂れて立たれたという「垂輪石」すいりんせきの石碑が近くの公園内に置かれている。（本シリーズ第十五回に詳細

記述）

(写生地) 万葉集に詠われる松浦川 (現・玉島川) 中流域に
位置する唐津市七山ななやま (上柳瀬) の溪谷を流れる清流「玉島
川」を描く。
(杏花)



・「松浦川に遊ぶ」の一連の歌は大宰帥・大伴旅人が管内巡幸の
幸のおりに神功皇后伝説が伝わる松浦川の故地を訪れた
際に鮎を釣っている美しい少女らに会い、その少女達と
贈答したという形で作られたものであろうが、旅人が松

浦川で釣りをしている少女を見て、仙女を想像したか、あるいは神功皇后の鮎釣り伝説を思い起こして作ったものであるとの説がある。

・万葉集には「松浦川に遊ぶ」の一連の贈答歌は十一首が載る。次の歌はその内の贈答歌各一首である。

く私が贈った歌一首く

まつら

1) 松浦なる 玉島川に 鮎釣ると

あゆ

いへじ

またせる子らが家路知らずも

卷五—856

(解説) 松浦の玉島川に鮎を釣るとして立っている子らの家に

ゆく道がわからない、(知りたいものだ。)

く娘らの報ふる歌く

ななせ よど

2) 松浦川 七瀬の淀は よどむとも

我はよどまず 君を待たむ

卷五—860

(解説) 松浦川の多くの瀬にある淀はよどもうとも、私の心
はよどむことなく、あなたをお持ちしましょう。

(参考文献)

・日本古典文学大系「萬葉集二」、滝口弘著「九州の万葉」等

「玉島川への公共交通機関等」

・JR筑肥線(福岡市→唐津市)「浜崎駅」で下車、昭和バスで南下し約10分玉島川河口部に至る。

さらに玉島川に沿って通る国道323号線(佐賀市内→唐津市内)に沿って運行するバスで万葉故地が続く唐津市浜玉地区から七山地区へ至る。